
編集・発行 芸予地震被災資料救出ネットワーク愛媛（愛媛資料ネット）
〒790-8577 松山市文京町3 愛媛大学法文学部寺内研究室気付
TEL 089-927-9317 Eメール terauchi@ll.ehime-u.ac.jp 郵便振替01690-8-5497

台風15号・16号による水害と愛媛資料ネットの活動

寺内 浩（愛媛大学）

台風15号に伴う集中豪雨は県内各地に大きな被害をもたらしたが、新居浜市多喜浜地区の土石流被害は特に大きく、予讃線が同地区で一週間にわたって不通になるほどであった。多喜浜は江戸時代中期から昭和の30年代まで塩田が広がっていた地域で、かつて塩田経営を営み、古文書等を保有する旧家がいくつもあることで知られている。そこで、同地区に詳しいメンバーを中心に資料の確認調査を緊急に行ったところ、多くの家の資料は無事だったが、大きな被害を受けた家の資料については現在も確認作業が続けられている。

台風15号に続いて台風16号が四国を襲い、大洲市で肱川が氾濫した。被災地の多くは新興の商業・住宅地であったが、被害は一部旧村にも及び、阿蔵地区にある八幡神社の私塾古学堂（市指定文化財）が床上浸水した。八幡神社は大洲・新谷両藩の総鎮守であるとともに、古学堂は幕末期に多くの国学者等を育成したことで知られている。大洲は水害の多いところとして有名だが、この地区にとって今回の水害は戦後最大規模のものであった。私が古学堂に行ったのは水がひいてしばらくたってからのことだが、畳の上約60センチほどのところまで水に浸かった跡が壁にくっきりと残っていた（書籍等は別屋にあり、無事が確認されている）。

このように、愛媛県では大規模な水害が相次ぎ、愛媛資料ネットでは、芸予地震の時と同様、このままでは家々に残されている歴史資料が破棄・処分されてしまう恐れがあると判断し、そうした事態を防ぐため、9月8日付で以下のような「集中豪雨被災地における歴史資料保全のお願い」をマスコミを通じて公表した。愛媛資料ネットは、現地の教育委員会や地域史研究団体と連携しながら、今後も被災地での活動を続けていく予定である。皆様のご協力よろしくお願ひします。

集中豪雨被災地における歴史資料保全のお願い

芸予地震被災資料救出ネットワーク愛媛

代表 武智利博（伊予史談会会長）

内田九州男（愛媛大学教授）

台風15号・16号・18号に伴う集中豪雨ならびに暴風により被災された皆様に
謹んでお見舞い申し上げます。

私たち、芸予地震被災資料救出ネットワーク愛媛（略称：愛媛資料ネット）
は、2001年3月の芸予地震の際に地域の歴史資料を救出・保全するため、県内各
地の歴史研究団体と大学関係者が共同して結成したボランティア団体です。芸
予地震発生後、今治と松山を中心に活動を行い、解体直前の蔵から古文書を救
出するなど大きな成果をあげることができました。

私たちがこうした活動を始めたのは、1995年の阪神・淡路大震災の際、地域
の貴重な歴史資料がその重要性を認識されないまま捨てられたり焼かれたりす
るという事態が数多く起きたためです。芸予地震の時にも、私たちが駆けつけ
た時にはすでに歴史資料が処分された後であったということが何度もありまし
た。このように、災害が起きるとそれを契機に家や蔵に古くから置かれていた
歴史資料が破棄・処分されてしまうのです。

家々にはさまざまな形で家の記録や地域の歴史を伝えるものが数多く残され
ています。しかし、今回の水害により長く伝えられてきた古い文書や記録など
がなくなってしまうとすれば、それは家にとっても地域にとっても残念なこと
といわざるをえません。

なお、文化財に指定されているような著名なものだけが歴史資料ではありま
せん。昔の人の暮らしぶりなど、地域の歴史を知る手がかりとなるものが歴史
資料です。具体的には、以下のようなものがあります。

古文書（くずした文字で和紙に書いたものなど）

古い本（和紙に書かれて冊子にしてあるものなど）

明治・大正・昭和の古い本・ノート・記録（手紙や日記など）・新聞・写真
・絵

古いふすまや屏風（古文書が下貼りに使われている場合がよくあります）

農具、機織りや養蚕の道具、古い着物など、物づくりや生活のための道具

これらのものは母屋や蔵、あるいはその中の箱やタンスに収められています。
一見すれば紙くずやゴミのように見えるものでも、実際には貴重な歴史資料で
ある場合がよくあります。これらのものは捨てたり焼いたりせず大切にご保管

下さい。

地域の歩みを伝える貴重な歴史資料を守る活動に、なにとぞご理解をいただき、ご協力下さるようお願いいたします。なお、ご所蔵の歴史資料の保管・整理などに困っておられる場合には、下記の所までよろしくご連絡下さい。

芸予地震被災資料救出ネットワーク愛媛（略称：愛媛資料ネット）
〒790-8577 松山市文京町3 愛媛大学法文学部寺内研究室気付
TEL 089-926-6401 Eメール terauchi@LL.ehime-u.ac.jp

役者似顔給金付の効用

一新出資料『西の顔見世青物つくし』をめぐる一

神楽岡 幼子（愛媛大学）

松山市の旧家の屏風の下張りから数点の江戸期の歌舞伎資料が出現した。中でも「役者似顔給金付」と称される役者評判記の一種は貴重である。役者似顔給金付は現在のところおよそ80点の存在が確認されているが、今回、屏風の下張りから出現した『西の顔見世青物つくし』はこれまで存在の知られなかった新出資料である。以下に簡単に紹介したい。

一、役者似顔給金付について

まず、初めに役者評判記、および役者似顔給金付（以下、「給金付」とする。）について、その性格と効用を述べておこう。役者評判記は歌舞伎の評判書であるが、現代の演目主体の劇評と異なり、役者に対する評価を中心に記述するところに特徴がある。元禄期に始まり明治二〇年代まで刊行され続けた息の長い定期刊行物であり、基本的に京、大阪、江戸の三都の歌舞伎を対象とした上方の本屋による出版物であった。しかし、安定した刊行が継続されたわけではなく、天保の改革によって一時中断せざるを得ない時期があったり、江戸の本屋によって江戸版の役者評判記が上方版に並行して出版された時期があるなど時代によって変遷していく。給金付は原則、江戸の役者を対象とした、江戸の本屋による刊行物であり、給金付から読みとれる情報は江戸の芝居好きの直接的な役者評が反映したものともいえ、上方版役者評判記だけでは分からない江戸の芝居好きの役者に対する意識を知り得る非常におもしろい資料なのである。

給金付は江戸時代後期から明治にかけて、顔見世の頃に毎年、刊行されていた定期刊行物である。江戸期の歌舞伎界の一年は顔見世（十一月興行）から始まり、年度ごとに新たに役者と劇場が出演契約を取り交わす。契約料もこのと

きに決まるわけだが、果たしてかの人気役者はいかほどの給金を得たのであろうか、といった興味は江戸期の芝居好きたちも大いに気になるところである。そういう好奇心に応える形で給金付には「千両」とか「七〇〇両」という給金額が記される。もともと、実際の給金ではなく、給金による役者のランク付けといった意味合いが強い。元来、役者評判記は「上上吉」の位付を一〇〇点とし、「上」から「上上」へ、そして「上上吉」へと位が上がっていく形式で役者を評価したものであるが、給金付はこの位付に加えて、給金という具体的な数字を示すことにより、より単純な形でランク付けを示したものである。役者評判記は位付の低い役者も含め、時には一〇〇名以上の役者に位付を付すため、非常に複雑な評価がされるのに対し、給金付は半紙三枚を一組とし、一枚に十二名、合計三十六名の役者を選択して載せるため、その評価も明確であるが、全体的に評判記より評価は高めであるという。また、大御所の役者には「給金不定」としたり、二世役者には期待票を込めた評価がされるなど、ご祝儀的な判断もあり、全体的にめでたさがあふれている。描かれた役者に添えられた狂歌なども役者をことほぐめでたい気分のものが多い。さらに給金付には役者の似顔や紋、屋号や俳名、住所などが書き込まれており、現代のタレント名鑑のような役割もある。毎年の給金付の刊行を楽しみにしていた江戸の芝居好きは役者の成長を給金や位付によって確かめ、また、描かれた似顔絵を味わい、狂歌や見立ての工夫を楽しんだのであった。一見したところ粗末な紙片であるかもしれないが、そこには実にさまざまな情報が込められているのである。

二、新出給金付『酉の顔見世青物つくし』について

では、今回の新出給金付『酉の顔見世青物つくし』から読み取れる情報はいかなるものであろうか。刊年は明記されないが、役者の顔ぶれから判断して、文化十年の酉年のものと考えられる。先に述べたように、歌舞伎界の一年は十一月に始まるので、「酉の顔見世」は文化九年十一月にあたるのだが、不可解な点もある。描かれた三十六人の役者の内、二人の役者が文化十年度はすでに江戸にはおらず、大坂で舞台に立っているのである。まず、中村歌右衛門は文化九年の秋、五年間の江戸での舞台を勤め上げ帰坂するが、同年九月には上坂名残狂言を披露しており、歌右衛門の帰坂は九月には江戸でも周知の事実であった。また、中山豊五郎も歌右衛門とともに帰坂しており、すでに江戸にはいない。二役者のこれまでの江戸での活躍の記念に採用を決めたものであろうか、その理由は分からない。給金付については倉橋正恵氏「役者似顔給金付考」（『芸能史研究』152号、芸能史研究会編、2001年1月）に詳しいが、給金付の研究はまだ始まったばかりで、どのような基準で三十六人を選定したのか、役者評判記の評価との異なりをいかに解釈すべきなのか等々、未解決の問題は多い。今後の調査を期したい。

内容はというと、当時の歌舞伎界の人気役者三十六人の顔が揃い、それぞれ青物に見立てた評が添えられる。例えば、市川団十郎（当時の団十郎は七代目にあたる）の場合は「柿」に見立てられる。その評に曰く「くだものでその名も高き木さわしの かきのすわふはいへのかぶ也」。「木さわし」は木についたまま熟し、渋みがとれて甘くなった柿のこと。その木ざわしの柿に団十郎を見立てた心は、柿色の衣装「柿の素襖」を身にまとい演じる『暫』は市川の家のお株であるとの意味合い。『暫』は現代でも歌舞伎十八番の一つとしてお馴染みの演目であるが、歌舞伎十八番は七代目団十郎によって天保年間に選定されたものである。ちなみに、団十郎の位付は「上上吉」、給金は「給金不定」とあり、破格のものと見られている。さて、次に市山七蔵。「青物」とあれば「大根役者」のことばが思い出されることであろうが、「大根」に見立てられたのが市山七蔵である。その心は「いろ／＼のかわりにつかふ大こんは むもふなふてもなけりやなるまい」。何にでも使えるが、決してうまく（旨く・上手く）はない。かといってなければ困るというしろものだという。なお、位付は「上上土」。「土」は「半吉」と読み、「吉」の字の第三画目までしかない状態である。第四画目以降はこれからの努力次第ということで、「吉」の字に至る途中過程であることを示す。給金は「四百両」。このような形式で三十六人の役者がそれぞれの個性に応じた青物に見立てられていく。この見立ての妙



「西の顔見世青物つくし」

味も給金付の楽しみの一つであった。給金付を手にした江戸期の芝居好きは役者に対する評価を楽しむと同時に、見立ての工夫を楽しみ、また、住所や俳名などその他の情報を見て、あれやこれや役者のうわさばなしに興じ、今年度の彼らの活躍を胸に思い描いたことと思われる。

さて、今回、屏風の下張りから出現した歌舞伎資料は給金付だけではない。ほかに3点の絵本番付も出現した。絵本番付は現在のプログラムにあたるもので、筋書きや場割り、配役を示した観劇の手引き書である。森田座の櫓紋を刷った色刷の袋（包み紙）も残るが、袋は通常、捨てられるものなので、伝存は多くなく、これも貴重な資料である。見つかった絵本番付は文化九年七月、江戸中村座上演の一点、文化十年三月、江戸森田座上演の一点、および、文化十年六月、江戸森田座上演の一点の合計三点である。ちょうど給金付と同時期の江戸の資料である。屏風の下張りという伝来の全く分からない資料群ではあるが、想像をたくましくすれば、文化期に江戸に行って芝居見物を楽しんだ誰かが記念として持ち帰った資料がまとまって今に伝わったのではないか。歌舞伎は時間芸術であり、時とともに消滅するが、それを楽しんだ人の息吹は確実に今に伝えられているといえるだろう。

高校生と愛媛資料ネットの活動

皆川勝子（愛媛大学農学部附属農業高等学校）

高校生が愛媛資料ネットの活動に参加させていただくようになったのは、昨年11月に愛媛県歴史文化博物館学芸員土居聡朋氏の紹介で愛媛大学法文学部の寺内浩先生に案内をいただいたのがきっかけである。土居聡朋氏は一昨年より本校の総合学習「フリーサブジェクト」の講師の一人として本校生徒の指導に携わっていただいております。高校生が本物にふれる機会がいかに大切かをよく理解しておられると思う。これまで朝倉村の満願寺における古文書整理、12月に法文学部で行われた「屏風の下貼りはがし」、6月の北条市ふるさと館での活動に参加させて頂いた。その間に8名の高校生が古文書にふれ、それぞれ感想をよせてくれたのでここで紹介したい。いずれも現在本校の3年生である。

○T. M. くん

愛媛資料ネットの活動には、学校の授業で指導していただいた土居さんに教えていただいたのがきっかけで参加しました。以前から文化財には関心があり、昨年11月の朝倉村の満願寺での活動では、古文書に実際にふれてみて、文化

財のすばらしさを改めて発見することができました。また、法文学部でのふすまはがしの活動の時には、ふすまの下に貼られていた文書を1枚ずつはがしていくと当時の浮世絵のようなものも出てきて、ここでもおもしろさを実感しました。

作業中には、他の参加者の方々にも親切に説明していただき、とても感謝しています。また、参加者の方が皆熱心に作業に取り組んでおられたのも刺激を受けました。過去を知るということは、同時に未来を知ることだと思います。愛媛資料ネットの活動では、そうした貴重な体験をすることができるので、今後も機会があればぜひ参加させていただきたいです。

○M. O. さん

私は12月16日と22日の2回、ふすまの下貼りはがしの作業に参加しました。テレビなどで、昔は読み終えた手紙をこのように使っていたことは知っていましたが、実際にこの目で見たのは初めてでした。私が作業中に見たものには「するめ代」と書かれたものや名前の下書きを何度もしているものや大量のお札があり、昔の人が紙を無駄にしないようにしていたことが分かりました。

また和紙があれほど丈夫なことに驚きました。繊維の性質も分かっていなければ大切な資料が台無しになってしまうので、集中力が必要でした。1枚1枚はいでいく度に何百年も前の空気が蘇ってくる気がして、わくわくとした気持ちになりました。書かれていた文字も崩した字が多くてほとんど意味がわかりませんでした。時々読める字が出てきた時はうれしかったです。

機会があれば、またぜひ参加させていただきたいです。

○M. Y. さん

私が参加したのは朝倉村満願寺での資料整理だけですが、なかなか楽しいものでした。作業について「楽しい」以外の言葉で感想を求められたら「ドキドキした」と答えるだろうと思います。

古文書のページを正確に数えなければならないという緊張感もだが、古文書の一冊一冊に「古人がふれたものに私もふれているんだなあ」「昔の人はどんな思いでこれを書いたのだろう」とドキドキしながら作業しました。また、防虫剤の臭いに紛れた僅かな香りにも歴史を感じ、とても貴重な体験でした。

○K. S. さん

初めて「古文書」と呼ばれるものに直にさわりました。私にはふによふによした何かとしかわからない文字を、先生方はもちろん大学生のみなさんもすらすらと読んでいくのに感動しました。

12月のふすまはがしでは、お殿様も「するめ」を食べていたとわかってピ



「ふすまの下張り文書はがし作業」

ツクリしました。その時のふすまははがしやすいものだったので、結構さくさく作業できました。でも北条市ふるさと館で行ったふすまはがしは結構難しく、寺内先生の「繊細に大胆に」というご指導にプロの技を感じました。作業が終わってふるさと館内に展示してある土器を見せてもらいました。今まで作業していた文書と同じ頃の土器もあり、なんだか身近に感じました。

県美術館分館で行われた史鍊会の研究発表で、地域に伝わる昔話と古文書に書かれている話が微妙に違っていたことに驚きました。記録の大切さを感じました。

OM. M. さん

私は満願寺で初めて古文書というものに出会いました。初めはどう扱っているのか戸惑いましたが、大学生の方たちにいろいろ教えて頂いて楽しく作業することができました。なかでも昔の漢字の話が興味深かったです。

次にふすまはがしの作業を手伝わせて頂きました。昔の文献は意味がわからなくても眺めているだけで楽しかったです。よい体験をさせて頂きありがとうございました。

ON. O. さん

ふすまはがしに参加して、自分がはがした紙に字や絵があって驚いた。またその時は結構はがしやすかったのでおもしろかった。参加して良かったと思う。

OY. H. さん

古文書にさわることができるなんて聞いてとても嬉しかったです。その頃、私は古文書といえば博物館でしか見たことがなく、また巻物のイメージしかありませんでした。しかし、参加してみると想像とは全く違い、何が何だかわからない紙切れが大量に箱に入っているのを見て、正直「なんだこりゃ?!」と拍子抜けしてしまいました。それでもラベルを貼るという作業を続けていくうちに、その紙切れが歴史のある大切なものだとう理解できました。それは一緒に作業していた愛媛大学の学生さんが、私が全く読めない文字を丁寧に教えてくれたからです。おかげで、とても楽しく勉強することができました。

その後、ふすまはがしや研究発表会に参加し、膨大な地道な作業の中から貴重な古文書が見つかることを知りました。この体験を今後の進路に生かしたいと思います。本当にありがとうございました。

OM. W. さん

歴史については以前から興味があったので、この活動に参加させていただけてとてもうれしい。実物を実際に見たり触れたりできるのはとても貴重な体験

だと思う。特に自分は本を読んだだけの知識だと理解しがたい点もあり、偏見や先入観を持ったままのこともある。今回ふすまはがしの作業ではたくさんの方と話をしながら作業でき、自分一人では到底考え付かない疑問などにも意見を交わすことができたので、とても勉強になった。

確かに難しすぎて理解出来ないことも多かったが、わからないことをもっと勉強したいという気持ちになった。知識が乏しいためいろいろな見方が出来ないのはとてもつらくもったいない気がするからだ。

以前から歴史の勉強ができる大学に進学したいと思っていたけど親から「就職がないんじゃないか」と反対され、自分でも迷っていた。しかし、今回この活動に参加させて頂いて今の自分の知識のなさを知ることができ、やっぱり歴史の勉強がしたいと強く思うようになった。帰宅して作業の様子を話すうちに親も理解してくれるようになったので、今は志望大学に入学できるようしっかり受験勉強をしようと思っている。いい経験をさせて頂きありがとうございました。

愛媛資料ネット総会を開催

本年度の愛媛資料ネット総会が6月5日（土）に愛媛大学法文学部中会議室で開催されました。総会では、昨年度の活動、会計報告が了承された後、今年度の活動方針として、従来からの資料調査・整理活動を継続するとともに、一昨年度、昨年度に引き続き、公文書館問題、市町村合併に伴う公文書等の破棄・散逸防止に取り組むことが確認されました。また、参加者からは各地における資料保存活動の状況や市町村合併に伴う公文書保存についての具体的な提案など数多くの貴重な意見が出されました。なお、総会に先立ち、昨年度行った屏風の下貼り文書剥がしで見つかった資料の説明会（記者発表）が行われました。（H・T）

会計報告(15・4・1～16・3・31)

| | | |
|----|---------|---------|
| 収入 | 募 金 | 14,000 |
| | 利 子 | 4 |
| | 学習集会剰余金 | 9,384 |
| | 前年度繰越金 | 267,338 |
| | 計 | 290,726 |

| | | |
|----|--------|---------|
| 支出 | 発送費 | 107、520 |
| | 交通費 | 14、500 |
| | 文具費 | 3、211 |
| | その他 | 9、102 |
| | 次年度繰越金 | 156、393 |
| | 計 | 290、726 |

本年度の委員は以下の通りです。

代表：武智利博、内田九州男

委員：川岡勉、川東靖弘、近藤福太郎、島津豊幸、白石通弘、仙波令巳、
徳永高志、永井紀之、西尾和美、松原弘宣、村上正郎、森正史、森正康、
矢野達雄

事務局長：寺内浩

調査・整理活動、その他

- ◆台風15号・16号に伴う集中豪雨により愛媛県は大きな被害を受けました。愛媛資料ネットは地域の方々と連携して被災地での活動を今後も続ける予定です。皆様のご協力をお願いします。
- ◆屏風の下貼り文書の中からみつかった歌舞伎関係の資料について神楽岡先生に解説文を書いていただきました。
- ◆以前から資料ネットの活動に積極的に参加していただいている愛媛大学農学部付属農業高等学校の先生及び生徒さんたちから参加体験記が寄せられました。
- ◆4月に北条市のふるさと館で愛媛大学の教員・学生と風早歴史文化研究会・二神系譜研究会の方々が共同で資料の整理作業を行いました。
- ◆4、5月に3回にわたって今治市の広紹寺で今治史談会と檀家の方々及び愛媛大学の教員が共同で資料の整理作業を行いました。
- ◆6月に朝倉村満願寺で愛媛大学の教員・学生が朝倉村史談会の方々の協力を得て資料の整理作業を行いました。
- ◆7、8月に今治と松山でふすまの下貼り文書はがしをしました。このうち愛媛大学で行ったものには、高校生に加えて、夏休みの体験学習として高浜中学校の生徒さんも参加しました。(H・T)
- ◆本年の愛媛資料ネットの活動には、愛媛大学地域創成研究センターの研究活動補助費が使用されています。

愛媛資料ネット活動日誌

- ・ 4月17日
北条市のふるさと館で資料の目録作成作業（20名）
- ・ 4月23日
今治市の広紹寺で資料整理作業（13名）
- ・ 5月18日
今治市の広紹寺で資料整理作業（11名）
- ・ 5月28日
今治市の広紹寺で資料整理作業（10名）
- ・ 6月5日
愛媛大学で愛媛資料ネットの総会開催（32名）
- ・ 6月18日
今治市中日吉町で資料の整理作業（8名）
- ・ 6月19日
朝倉村満願寺で資料の目録作成作業（23名）
- ・ 7月2日
今治市中日吉町でふすまの下貼文書をはがす作業（8名）
- ・ 7月9日
今治市中日吉町でふすまの下貼文書をはがす作業（5名）
- ・ 7月15日
今治市中日吉町でふすまの下貼文書をはがす作業（5名）
- ・ 7月27日
愛媛大学でふすまの下貼文書をはがす作業（24名）
- ・ 7月30日
今治市中日吉町でふすまの下貼文書をはがす作業（5名）
- ・ 8月6日
今治市中日吉町で下貼文書の整理作業（5名）
- ・ 8月24日
松山市道後湯之町で資料の搬出作業（2名）
- ・ 8月25日
新居浜市の被災地を巡見。教育委員会に資料ネット活動への協力を要請（2名）
- ・ 8月27日
今治市中日吉町で下貼文書の整理作業（5名）
- ・ 9月3日
今治市中日吉町で資料の整理・校正作業（5名）
- ・ 9月6日
大洲市の被災地を巡見。教育委員会に資料ネット活動への協力を要請（6名）
- ・ 9月8日
県庁記者クラブで「集中豪雨被災地における歴史資料保全のお願い」の記者発表（2名）
- ・ 9月17日
今治市中日吉町で資料の整理・校正作業（8名）
新居浜市産業遺産活用室に資料ネット活動への協力を要請（2名）
新居浜市船木で資料調査（4名）
- ・ 9月24日
今治市中日吉町で資料の整理・校正作業（7名）